

安楽道

発行所 徳島県板野郡上板町
四国六番安楽寺
編集人 弘法大師講本部
島田裕峰
電話 〇八六四一〇四六代
印刷所 渡部印刷所

般若心経の教えと四国遍路(3)

日本の巡礼とヨーロッパの巡礼

四国六番安楽寺

住職 島田 秀峰



虚空菩薩蔵

人が休養できる状況にしてあげることが大切です。

実は、十三仏さんの中には、お不動さん、観音さんと真逆の働きを持った仏さまが同居されているのです。どちらもよろそかにできません。

〇虚空蔵さんは、少年少女が大人になる、中学生ぐらいになると、あまりものを言わなくなる。お父さん、お母さん、先生がうるさくなる。テレビやスマホ、インターネットで見た世の中の魅力的な人が目につき、お父さん、お母さん、先生が雑草(役にたっていないもの)に見えてくる。尊敬できなく、「空虚」に見えてくる。「あんな人になりたくない」と思ったり、「何もできない自分にも自信がない」すべてが空虚で空しくなる。大なり小なり、そのような時代をくりぬけて、世の中のことを一つ一つ学び、経験することで、この世にスーパーマンは居ないことがだんだんわかり、それぞれの場所、お父さんもお

母さんも先生も役に立っている、小さいけれども輝いて「一隅を照らしている」、ということとがだんだんわかってくる。私はこれを「空虚が虚空に転じる」と考えています。そう考えると「虚空」とは、この世界の宇宙の空間を表しており、父も母も先生も自分も雑草(役に立たないもの)ではなく、皆それぞれ分野で「一隅を照らしている。」それぞれに生きていく意味があり、役目を果たしている貴い存在である。そして、そんな生きとし生けるもの、有情非情をすべて(一切衆生)を包み込むとつもない大きな器、それが虚空蔵菩薩さんの蔵であり、私たちはその蔵の中で生かされているということになる。等々、十三仏さんそれぞれにこのような救いの形があります。

「円相」「空」を巡礼という型にする と四国遍路になる

さて、金剛界、胎蔵の両界マンガラを縮めると十三仏さんになる。そして、これをひとつ一筆で描くと「円相」になる。

それから、一切経といわれる仏教の経典を二百六十余文字にしたものが般若心経であり、これを一文字で書くこと「空」という一文字になる。

この「円相」と「空」は、同じ仏教の悟りを「二筆」、「一文字」で表したものである。四国遍路とすることができま

「熊野詣」という単一の聖地をめざす巡礼

日本には、平安時代後期から特に鎌倉時代後期、室町時代にかけて「蟻の熊野詣」と言われ栄えた巡礼がある。この熊野詣の道は紀伊路と伊勢路などがあるが、紀伊路は京都から淀川を下り難波で下船して、そこから九十九王子(遥拝所)を通って紀ノ川を渡り、中辺路、あるいは大辺路(紀伊半島)を通して熊野本宮をめざす、この本宮は普通めざすところは大きな山の中腹とかにあるもので、私は最初にお詣りした時もう近いはずだが、どこに本宮があるのかと山の中腹や山の上をさがしていたのですが、眼下にあるのを知って、ここに逆転の発想を見た思いがして感激し、カルチャーショックを受けたことを思い出します。この本宮は、熊野古道から眼下に見える、熊野川と音無川の合流地点の大斎原という広大な河川敷の中にあった。紀伊山地の山を越え、越えやってきた道者(熊野詣の人)は、この川に下りて汗をぬぐい、禊をして体を清めてそれから本宮に詣ったという(明治二十二年に水害で現在の山中に移転)。

スペイン・サンティアゴ・デ・コンポステーラの単一聖地をめざす 一尊直線型の巡礼

この巡礼は、千年の歴史をもつカトリック教徒の巡礼でヨーロッパの巡礼であったものが、世界文化遺産になると、それまで三万人程の巡礼者であったのが、今では三十万人になった。そして、今までヨーロッパのカトリック教徒の巡礼であったものが、世界中から色々な宗教の人が訪れる巡礼に変わってきたという。巡礼者が変わるとそれを受け入れる教会も、巡礼道の沿線地域も大きく変わったという。教会側や巡礼道の沿線の人々も宗教を問わない、多様な宗教を持つ人々を受け入れるようになった。もちろん日本からの仏教徒もこの巡礼に参加して問題はない。

一ヶ所の聖地をめざした巡礼と言えるが、熊野には本宮、新宮、那智の三山があり、熊野に詣った人は、この三山を巡るのが古くからのならわしである。熊野詣は完全な単一聖地・一尊直線型の巡礼ではなく、少し多神教的(複数の神仏を巡る)な要素が加わった巡礼の型であるといえる。本宮は、「スサノウ」(本地は阿弥陀)、新宮は「イザナギ」(本地は薬師)、那智は「イザナミ」(本地は千手観音)が祭神、本地となっていた。



サミュエル・ハンチントン氏

「執着」になると、排他独善に陥る。そうすると、他の十二の仏さんの色があせる(薄くなる)、しかし、これを平常心に戻すと、又、

しかし、これは純粹な一つの神、一つの仏を信じる信仰を否定するものではありません。むしろ、それをよしとするものです。私は信仰の基本、信仰の最初は一つの神、一つの仏を信じることから始まらねばならないと考えています。浄土宗をお開きになった法然上人(親鸞上人の師)はここで「選択」というお言葉をお使いになりました(選択本願念仏集)。称名念仏、南無阿弥陀仏一つを「私は選択」する。一心不乱

脇目もふらず、ということ。この「選択」には、排他独善ではないという意味が込められている、と私は考えています。アメリカのサミュエル・ハンチントンという政治学者が「文明の衝突」という本の中で「イスラム教徒もキリスト教徒もどちらも、自分の信仰が唯一で正しく、他はまちがっている、と主張する。そして、『唯一正しい自分の信仰を信じない人』を自分の信仰に改宗させる義務がある」と両

者が信じている、これでは衝突は止まない。」と言ひ、この衝突を回避する(止める)智慧をキリスト教もイスラム教も持っていない、と嘆いています。宗教は、この「智慧」をもって初めて成長した成熟した宗教と言えるわけです。さて、十三仏さんのお話に戻ります。お不動さんを一心に信仰する。そして、その信仰によって、幸福が増進していきます。しかし、これが「こうじる(甚だしくなる、高ぶる)」、「執着」になると、排他独善に陥る。そうすると、他の十二の仏さんの色があせる(薄くなる)、しかし、これを平常心に戻すと、又、

十三仏全部に色がついて、十三仏それぞれの個性を持った仏さま達が見えてくる。十三仏さんそれぞれの仏さんの専門家としての意味、働きがわかってくる。〇お薬師さんは病気を治して下さる。〇阿弥陀さんは観音・勢至菩薩さまといっしょに家族が亡くなった時に極楽の浄土に導いて下さる。〇お地藏さんは子どもたちの安全と成長をいつも見守って下さっている。〇お不動さんは、怠けていると叱ってくれる厳しいお父さん。〇観音さんはやさしく包んでくれるお母さん。頑張りすぎてうつ病になっちゃった人、家族はお不動さんのように頑張り、頑張り、頑張り過ぎでうつ病になったわけですから、観音さんのようにじっと見守ってあげること、本



熊野本宮 大斎原の昔の絵図

が最も栄えた時代であったが、その後は巡礼者は少なくなっていた。一九九三年(平成五年)に世界文化遺産になると、それまで三万人程の巡礼者であったのが、今では三十万人になった。そして、今までヨーロッパのカトリック教徒の巡礼であったものが、世界中から色々な宗教の人が訪れる巡礼に変わってきたという。巡礼者が変わるとそれを受け入れる教会も、巡礼道の沿線地域も大きく変わったという。教会側や巡礼道の沿線の人々も宗教を問わない、多様な宗教を持つ人々を受け入れるようになった。もちろん日本からの仏教徒もこの巡礼に参加して問題はない。沿道には、食堂や宿泊所ができ、もう通ら

九世紀にイエスキリストの使徒（聖人）大ヤコブのお墓がここで見つかり、それと時を同じくして、スペインのイベリア半島のイスラム教徒の勢力からキリスト教徒が領土を回復するための戦争があり、この戦争は大ヤコブの名で行われ、キリスト教徒は勝利する。それによって、ヨーロッパ中のカトリック教徒の巡礼が行われるようになり、ここがカトリック教徒の巡礼の聖地になったという。



サンティアゴ巡礼の道

これらはいずれも単一聖地をめざす、一尊直線型巡礼である。

次号へつづく

このスペイン・サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂は、実はヨーロッパの西海岸の辺地（その昔、文化や経済の遅れていた地方）にあり、このコンポステーラ大聖堂を中心に五十程の小さな教会があり、高野山のような宗教都市を形成しており、他にこれといった産業のないところだという。

このサンティアゴ巡礼は、ヨーロッパ中からの巡礼道があるが、主たる巡礼道はフランスとスペインの間のピレネー山脈を越えてスペインに入って、サンティアゴのコンポステーラ大聖堂まで800km（四国は1400km）の道を歩く、贅沢をせず、質素な旅で重い荷物を背負って長い道を歩くことを基本とする、昔ながらのカトリック教徒の巡礼（修行）の旅が今に残っており、コンポステーラ大聖堂の100km手前の立ち寄り先でスタンプをもらうと、大聖堂に着いた人には証明書が出されることになっている。自転車でも巡礼する人は

200km手前でスタンプをもらおうと証明書が出される。そのような制度もある。この証明書があれば、飛行機代の割引が受けられたり、色々な特典がある。そういった意味では、贅沢をせず、質素な旅、重い荷物を背負い、長い道を歩く、そして御納経を受ける文化・宗教は違えど、このサンティアゴ巡礼と四国遍路には、共通点、重なる面が多いのである。そして、このサンティアゴ巡礼を経験したヨーロッパの人達が、APNに四国遍路という巡礼があることを最近知ることになり、訪れるようになった。そして、遍路の体験記など出版もなされている。四国では、徒歩の遍路は令和元年には日本人の徒歩遍路をヨーロッパ人の徒歩遍路が数の上では上回った。令和

二年の安楽寺の宿坊の宿泊者の20%はヨーロッパ人の四国遍路となっている（今はコロナ禍で）。カトリックの聖地巡礼には、中東・イスラエルのエルサレムの巡礼、イタリアのローマ・パチカン巡礼がある。これらはいずれも単一聖地をめざす、一尊直線型巡礼である。



コンポステーラ大聖堂

安楽寺の御本尊薬師如来様の眷属であり、薬師如来様の化身であるとも言われる十二神将の守護印。十二神将は十二夜叉神将、十二神王、十二葉叉大将とも呼ばれ、薬師如来様を信仰するものやその経典を読むものを護るとされる十二の武神です。また、薬師如来様がご修行中にたてた十二の大願（病苦を除き、安楽を与えるなどの十二の願）を守護する神でもあります。安楽寺本堂の十二神将像は頭上に十二支の動物を戴き、それぞれの干支の生まれ年の人々を守護して下さると信仰されています。守護印はお遍路さんの白衣、サンヤ袋、納経帳や

キャンピングカーの充電スペースを設置

コロナ時代において、密を避けられるレジャーであるキャンプに人気が集まっており、その中でもキャンピングカーは人混みを避けられ、ペットも同行可能ということなどが注目されています。日本国内の総保有台数も右肩上がりが続いていますが、キャンピングカーで車中泊をしたり、充電ができたりする場所はまだまだ少ないのが現状です。そこで、安楽寺ではキャンピングカー用の車中泊プランを始めました。

キャンピングカーを所有されている信者さんの御協力で安楽寺の駐車場（県道北側）に充電スペース（お遍路RV駅路寺）を設置、車中泊でも温泉浴場の利用や夜のお勤めも参加できるプランを用意しております。まだ始まったばかりですが、お寺にこのようなプランがあるのはかなり珍しいようです。



薬師十二神将の十二支守護印

御朱印帳の空いているスペースなどに押印いたします。印は十二種類（十二支）で、ご自分の干支やご家族の干支などお好きな印をお選びいただけます（志納料二百円）。また、今年から本尊納経にはその年の干支の十二神将のスタンプを押印しております。

今年は、丑年なので伐折羅大将（頭上に丑）で、来年は寅年なので迷企羅大将（頭上に寅）というように毎年納経帳に押印するスタンプが変わります。

十二神将マスクのガチャガチャが好評

本堂に設置されている安楽寺オリジナルのガチャガチャのカプセル玩具販売機（通称ガチャガチャ）が新聞やテレビで取り上げられ好評です。特に十二神将の守護印がプリントされたマスクはテレビで紹介された翌日には在庫がなくなってしまうほどの人気で、現在は入荷待ちとなっています。



安楽寺谷秘伝 黒珠がバージョンアップ。抗酸化作用がある天然ビタミンEを加え、その名も安楽寺谷秘伝 黒珠+VE。

1,200円



「安楽寺谷秘伝 黒珠」は身体健康の護摩祈禱をしながらから発送しています。



31粒入り（1日1粒1ヶ月分）

伝統かめ仕込み鹿児島福山黒酢3ccを1粒に凝縮

伝統的な製法を守って作られる食品には想像以上の知恵が秘められています。黒酢のブランド「鹿児島福山黒酢」は200年の歴史を誇り、醸造をかめ壺（アマン壺）と自然の力で1年かけて行う日本伝統のかめ仕込みを今も買っています。「黒珠」1粒には3ccの鹿児島福山黒酢が凝縮されています。抗酸化作用があり、スーパービタミンと呼ばれる天然ビタミンEを加え、皆さまの健康に貢献できることを祈っています。

定期便1袋のとき6%off、2袋以上8%off
インターネットからの申し込みで3%off
まとめ買い10,000円以上でさらに5%off
定期便は毎月または隔月にお届け、定期便のインターネット割引は初回のみ有効

◎送料無料 商品代金5,000円未満はポスト投函、5,000円以上は宅急便となります。
◎お支払いは商品到着後、10日以内に同封振替用紙にてコンビニ又は郵便局よりご送金ください。ただし、商品代金5,000円以上は代金引換となります。
◎返品は商品到着後8日以内にお願いします。お客様のご都合による場合は返送料をご負担願います。
◎定期便の休止は4回目から承ります。

お申し込み方法

お電話で 電話088(694)5889
お電話の受付時間 10:00～16:00（月～土・祝）
FAXで Fax 088(694)5610
（安楽寺と共用）
メールで Mail shop@shikoku6.or.jp
ファックス、メールは24時間受付
おハガキで 63円 771-1311

商品名	黒珠
数量	個
今回のみ/毎月/隔月	
金額	円
電話番号	
お名前（フリガナ）	
ご住所（郵便番号）	



来年もお詣りに行こう
四国六番 安楽寺 売店
お四国のしらかわ
徳島県板野郡上板町引野寺ノ西北8

八月二十日 流水供養灯籠会

今年八月二十日の大祭(盆おどり)は新型コロナウイルスの感染拡大防止と参加者の皆様の健康と安全を考慮し、流水供養灯籠会とすることとなりました。



今年も、『流水供養灯籠会』として八月二十日に本堂と奥殿で有縁・無縁の精霊供養を行います。当日、本堂での施餓鬼供養・流水供養灯籠会

日程 令和三年八月二十日
施餓鬼供養・流水供養灯籠会
午後六時〜七時
宿泊 (一泊二食 六、六〇〇円)
※当日の宿泊もしていただけます。



今回、御供養をお申込みいただいた方には灯籠会の後日に温泉の御朱印と入浴剤をお送り致します。
※お申し込みが三千円の場合は御朱印一枚と入浴剤一個、六千円の場合は御朱印二枚と入浴剤二個を郵送いたします。
同封いたしております振込用紙の通信欄に戒名(法名)あるいは〇〇家先祖代々を書き、郵便局より一霊三千円をお送り下さい。(二霊以上の場合は金額を書き加えて下さい。)
当日、灯籠を浮かべ、御供養させていただきます。

払込取扱票											
通寄払込料金 加入者負担											
02	01	6	0	5	7	2	4	9	3	0	0
四国第六番霊場安楽寺											
お盆は先祖供養をしよう! (一霊2千円)											
☒ 点を入れてください											
☐ 為 家先祖代々菩提也											
☐ 為 菩提也											

振替払込請求書兼										
四国第六番霊場										
01	6	0	5	7	2	4	9	3	0	0
四国第六番霊場										
お盆は先祖供養をしよう! (一霊2千円)										
☒ 点を入れてください										
☐ 為 家先祖代々菩提也										
☐ 為 菩提也										

高野山奥之院に流れる玉川の川の中に建てられている卒塔婆は、流水灌頂といひ、もとは水難事故や難産でこの世を去った人々の霊を水で清め、追善供養をするために建てられました。現在では、広く様々な人々の供養として建てられています。今回、安楽寺ではこの流水灌頂にのり、本堂奥殿を流れる水路に亡くなった方々の戒名や法名が書かれた灯籠を浮かべ、光明真言をお唱えして追悼の祈りを捧げます。
郵送での受付をいたしております。左記のお振込み用紙を同封いたしますので、お気軽にお申込ください。

温泉の御朱印



令和三年七月二十一日より『温泉の御朱印』の授与を開始いたしました。この御朱印は安楽寺の御本尊である薬師如来像の恵みの湯として信仰されている当山の温泉水で墨を磨り、浄書された御朱印であり、お薬師様の御加護をいただけるよう祈願しております。御朱印には一薬師(はじめやくし)と書かれており、これは四国八十八ヶ所を一番の札所から順番にお参りをして行くこととまず最初に薬師如来様を御本尊とするお寺という意味です。古来よりお遍路さんは当山の温泉で心と体を癒し、長い遍路の旅にのぞみました。
※この御朱印は、書置きのみになります。納経帳に直書きはできませんのでご了承下さい

御祈禱した 温泉の入浴剤



今年の七月二十一日より温泉の素(入浴剤)の授与を開始いたしました。温泉山安楽寺の温泉の分析表をもとに作られた安楽寺オリジナルの入浴剤となっております。入浴剤の入っているパッケージには「阿州温泉山」と記載されており、「阿州」とは阿波の国(現在の徳島県)、江戸時代の納経帳に書かれていた文言を復刻したかたちです。
当山は、弘法大師様が温泉湯治の御利益をお伝えになったという全国でも珍しい旧跡であります。ご自宅での入浴の際にお使いいただき、安楽寺の温泉の気分を味わっていただければと思います。(郵送対応もいたします。)

新年を「コロナを乗り越える明るい年」に! 「結縁灌頂」 再度日程変更のお知らせ 令和四年一月八日〜三十一日に変更



コロナウィルス感染症の状況を考慮して、結縁灌頂を新年に変更を決定させていただきました。一日に集中して行うのではなく、令和四年正月一月八日〜三十一日まで、一日を午前の部と午後の部に分け、午前三十人と午後三十人(十五人のグループを二組ずつ)にして、行うことにします。

誠に申し訳ございませんが、すでにお伺いしているご予約は度々お手数をおかけ致しますが、ひとまずキャンセルとさせていただきます。再度ご予約をさせていただきたく、うまいしくお願い申し上げます。
感染症対策を十分に考慮し、又皆さんに喜んでいただける「新しい型」での結縁灌頂を考えております。皆さま楽しみにしております。

- ・結縁灌頂 御志納金一人三千円(御幣・大師之御手当)
- ・スマホをお持ちの方には結縁の写真を写し、LINEでお送り致します。
- ・午前の部 九時から一時間程度
- ・午後の部 十三時から一時間程度
- ・午前・午後各三十人まで完全予約制
- ・三十人に達すると別の日をお選びいただきます。(団体の場合は御相談下さい。)

個人の方も、宿泊(一泊二食七千四百円、三名以上六千六百円)、昼食(二千四百円)をご用意できますので、お気軽にお問い合わせ下さい(要予約)。※お電話で御予約下さい。万一のことを考えて、感染症対策を十分して新しい遍路・お詣りの型でお詣り下さい。

やっと開講の運びとなりました! 第61回教学講習会日程変更のお知らせ

令和四年(前期)二月十一日(金・祝)〜十三日(日)
(後期)二月十八日(金)〜二十日(日)

新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて、教学講習会の開講につきまして色々な選択肢を考えましたが、来春二月に日程を変更して行うこととなりました。御理解と御協力の程宜しくお願い申し上げます。

令和四年
(前期)二月十一日(金・祝)〜十三日(日)
一万六千五百円(二泊三日)◎定員39名
十一月九日午前九時開講・十三日正午閉講
(後期)二月十八日(金)〜二十日(日)
一万六千五百円(二泊三日)◎定員39名
十八日午前九時開講・二十日正午閉講
二月二十日午後一時〜三時得度式(得度者以外の方も参加可)
※前泊、後泊も可能です。(別途各六千三百円)



外国人お遍路さん

ようお参りです

第三回

Oliver Dunskus: 59, German
オリバー・ドゥンスクス
(ドイツ・59歳)
職業:
マーケティング・マネージャー

私は、父親の仕事で11歳から16歳までの5年間日本に住んでいました。ただ子供だったの身近な事にしか興味がなく、日本各地を旅行することはありませんでした。大人になり自身の仕事で日本にたびたび来るようになって改めて日本が大好きになり、子供時代にどれほど貴重な機会を逃していたのかに気づきました。

また、四国遍路の存在を知り、伝統的な暮らしが残る田舎の地域を探索しながら巡礼もできるということに惹かれました。

初お遍路は2015年。高知や松山、善通寺など大きな街の近くの札所だけに絞り、同じ宿に連泊してそこを拠点に周辺の札所を回るのを繰り返しました。この時はお試し遍路のようなもので、東京や京都も観光しました。この初体験がとても楽しく、翌年また四国に来て、



1番札所から33番札所までほぼ歩いて回りました。

2017年にまた来日。残り全て回って結願しました。この時は長い休みが取れず、歩くには日数が足りないのを知り、「ママチャリ」を買って33番札所から88番札所まで回って結願。そして1番札所に戻りました。これで私はお遍路に完全にハマってしまい、2019年に4度目のお遍路来日。4週間も休みが取れたので、歩きと電車やバスを組み合わせて通して回りました。まだ、休みが余っていたので愛媛県内の好きな札所をゆっくりと再訪するとともに、番外霊場や別格霊場、神社もたくさんお参りました。

5回目は2020年の春、コロナ禍が始まる直前。徳島県内の札所を一ヶ寺ずつゆっくりお参りし、境内の隅々まで堪能しました。

何度も四国に来てお遍路を知れば知るほど、なんと奥が深い、もっと知りたいと思います。四国在住の友人達からお遍路文化や札所、遍路道の知識も教えてもらい、遍路道沿いで見逃してしまっている場所がまだ数多くあるとわかりました。奥の院や番外霊場にもとても惹かれます。お遍路を取り巻く文化や歴史への興味は尽きません。お遍路は私を人間として成長させてくれました。思いがけないことと予定通りにいかないことも謙虚に広い心で受け入れることを学びました。それらの予想外の出来事で素晴らしい人々に出会うこともありました。

また、四国の多様な自然風景―山の木々や溪谷、険しい山道、竹林や岩場、海岸などにも魅了されます。山の札所から海沿いの札所まで歩くと、一日のうち何度か周りの景色が変わるのです。

ドイツ人はもともとハイキング好きが多く、スペイン巡礼道歩きは人気です。でも2015年の私の初遍路ではほとんど同胞を見ず、この素晴らしい四国をもっと知らせたいという使命感にも似た思いに駆られました。

フェリスブックでドイツ人お遍路グループを始め、他のグループにも四国について投稿したりしました。私の作ったグループは、今ではメンバー約1000人になり、ドイツ語と英語が共通言語です。昨春、前山遍路交流サロンでドイツ人遍路の数が大幅に伸びていると聞きました。私のお遍路宣伝の効果は定かではありませんが、ドイツ人遍路が増えているのとても嬉しいです。

SNSでお遍路宣伝をし始めた頃、四国遍路の距離や、宿泊場所や費用、始め方など同じ質問が多くきたので、遍路の基本や重要事項を短くまとめた文書を作りました。その時、日本語以外のお遍路関連本では、個人の遍路旅行記や随想が大部分で、札所そのものの解説や札所と札所の間の道のことに焦点をあてた本や、「遍路のしかた」本が出ていないと思いました。2017年、私はドイツ語初の四国遍路ガイドブックを出

版しました。執筆にあたって外国人遍路のバイブル、松下直行さんの「Shikoku 88 Route Guide」は大変参考にしました。彼の本の外国人遍路への貢献度は図りしれず、彼の功績は最高栄誉賞に値すると思います。ドイツ語版の後、要望が多く英語版も出しました。

私の本では、札所間の距離が補給や給水が難しい区間をどのように歩けばよいか解説し、遍路ころがしなど特に険しい道には、標高も示すなど工夫しています。お遍路に興味がある多くの外国人は日本語や遍路中の振る舞い方がわからず不安を感じており、私の本では、まず怖がらずに四国に行ってみようというスタンスで、お寺での参拝手順の紹介と共に、マナー違反や誤解を招くような行動も例示しています。一般的な遍路道以外にも、四国のみちなど他のルートも



紹介しました。

四国遍路初心者旅にいて疑問に思うような現実的な事項に焦点を絞り、遍路の歴史は少し触れていますが宗教的な事項や札所の伝説などは記載していません。私の予想を遥かに越え100冊近くが売れました。

昨春の遍路では、本の購入者何人かと始まりの数日を共に歩き、遍路装束の購入を手伝ったり、お寺で参拝作法と一緒にやり取りしました。彼らは自信をつけ、その後の一人旅も問題なかったそうです。ただ自身の遍路知識はまだまだなので、言葉の壁さえなければ先達の方々に一日ついて歩いてしっかり学んでみたいと思っています。コロナ禍が終われば、また毎年四国に来てガイドブックの修正を続けたい。

仕事を引退したら、一度すべて歩きで回るのが夢です。

新型コロナウイルスを克服して

一日も早く正常な社会に

令和二年一月二十八日日本人の感染が、はじめて確認された新型コロナウイルスは全国的に拡大し、第一次緊急事態宣言から六月二十日に解除した第四次緊急事態宣言まで五ヶ月間にわたり同じような状況をくり返している。感染者も六月末現在約八十万、死者も一万五千人と猛威をふるいいまだに収束の目途もたてられません。これ以上の犠牲は一日も早く止めなければなりません。幸いにして感染収束の切り札であるワクチンの接種が実施され七十五歳以上は七月末を目途に二回の接種を終わることになっており全国民の接種も十月か十一月には終る予定となっています。また紆余曲折のあったものの七月二十三日からオリンピック、パラリンピックが開催されることとなり、その感染対策が検討されている。今後私達は、個人の力ではどうすることも出来ないコロナ禍の下でいかに正常な社会生活が出来るかを考える必要があります。私達はまず現実を受け止める覚悟が必要であります。それは現状を正しく知り自分何が出来たかを明確にすることです。自分なりに真実を見極め正確な解釈ができるようにしたい。コロナ収束の切り札であるワクチンの接種を私自身も二回目も終り何となく気持ちが軽くなった感じがしています。日本国民全体で七割程度の接種が終るとコロナの感染も目に見えて減少し、従来の日常生活が戻ることもそう遠くはないであろうと言われている。人類には、これまで多くの感染症を克服してきた歴史があります。

有り余る情報の中で真実を見出すことによって、従来にも増した力強い日常を取り戻せることを期待して頑張ります。

(三木隆夫・文)

白南風や鳳凰堂の輝き

風薫る 格子の奥の大師像



俳句ポスト作品抄



発心の地へ 船で発つ 遍路かな
山頭火の 句碑あちこちに 遍路道
石仏や 抱かれて春の 日のたしか
せっかちな 人でしたから 落椿
大銀杏 繁る師走の 阿波の道
梅雨最中 寺の蹲い しずく音
昨夜の雨 あじさい艶増す 池の端に
青時雨 池に波紋を 描きつつ
鯉涼し しばしの休み 歩き旅
香煙を 幾度も招く 遍路かな
一足先に 山門くぐる 蝶々かな
部屋すでに 灯を入れて待つ 遍路宿
自分探しの 旅にあらんと 遍路行
遍路笠 荷に銀輪の 軽やかに
銅連の 飛沫きらめく 若葉風
若葉風 人なつこい 寺の鯉
延ばされぬ 事情に押され 夏遍路
阿波市 三木 光風

投句募集

四国遍路に関する投句を募集しています。遠方のかたは郵送で、近所のかたは境内にある俳句ポストにお願い致します。皆さまからの俳句をお待ちしております。

